



Noguchi Times

NOGUCHI INTERNATIONAL BUSINESS CONFERENCE NEWS Vol. 8 2015.7.21



米国財団法人野口医学研究所 評議員会 会長 佐藤隆美

CONTENTS

■ご挨拶	p2
■第18回NIBC開催内容	p3
■TJU客員教授任命式	p4
■パシフィック・パートナーシップ	p5
■浅野嘉久公式サイト開設のご案内	p6
■賛助会員のご紹介	p7
■野口記念インターナショナル画像診断クリニックのご案内	p7

ご挨拶

医療人としての野口との関わり

野口医学研究所の目指しているものは、「命を守る医療人の国際化」です。

私は、野口医学研究所の参与として、また水素の研究者として、野口医学研究所を通じて、国際医学交流を図り、水素の素晴らしさを世界のドクターに理解して頂き、広めたいと思っております。

私はこれまで、医療人の一人として多くの研究開発に携わってきました。近年では、水素を使って数々の製品（例えば「水素を発生させるセラミックRed Hydrogen」[野口ゴールドコレクション認定商品]、「水素吸引装置ENEL-02」、「お風呂用 水素パックBubble Salt」等）を世に出しております。

私の研究に依れば、病気のほとんどは「活性酸素」、「活性酸素」の中の「ヒドロキシルラジカル」の発生量が多過ぎると、体内の細胞やDNA(遺伝子)を傷つけ、老化を促進したり、糖尿病、高血圧、動脈硬化などの生活習慣病、癌などの原因になると医学界では「定説」となっています。また、精神的なストレスなどによっても、人間の体内での「活性酸素」は増大することが知られています。水素は、「活性酸素」を還元して除去できることから「抗酸化物質」として生体内で重要な位置を占めることが判ってきました。

私が開発した水素吸引療法は効果的で、慶応大学医学部を卒業されたドクターを初め、他の医学部を卒業されたドクターにも使用されており、多くの患者さんたちの治療に効果をあげております。「未病」対策には、不可欠なものとも言われており、これが、私が水素に拘る所以です。

現在は、健康支援センター 水素吸引サロンを全国に43店舗展開しています。延べ約4万人以上のお客様にご利用頂きましたが、一定の成果もあがり、大変喜ばれております。

米国財団法人野口医学研究所
参与会参与 高藤 恭胤



第18回NIBC開催内容報告

(NIBC : Noguchi International Business Conference)

2015年5月21日(木) 於：野口医学研究所 9階会議室

なぜ脳梗塞は「ピンピンコロリの天敵なのか？」 「寝たきり人間を作る原因ナンバー1なのか？」

脳梗塞は、発症した人の2割は死亡します。逆に言えば8割は生き残りますが、生き残ったとしてもそれはそれでとても大変です。「死んだ方がマシだ」と言う人もいます。手足が動かず介護なしでは生きられないため、多くは寝たきり状態となります。動けない時は、周囲への負担も大きくなりますし、私自身、何度も本気で死のうと思いました。40歳代で1/4、50代で1/3、60代で1/2の人が隠れ脳梗塞を体験していると言われています。70代以上では、ほとんど全員が該当するそうです。初期症状ではボールペンを落としたり、もの忘れをしたり、視野が狭くなったりしますが、それを老化現象と判断して見過ごされてしまうことも少なくなく、それが脳梗塞の怖いところです。私は、脳梗塞になった瞬間のことを今でもよく覚えています。それは大変珍しいことなのだそうです。それまで、私は健康診断でも特に指摘を受けることもなく、とても健康体だと思っていましたが、その時は、少し睡眠不足が続いていました。とにかく、その瞬間は意識があり咄嗟に玄関のロックを外すことができましたし、発見も早く、色々運が重なり、こうして体験談をお話することができます。脳梗塞は恐ろしい病気です。しかし実体験を持った者からでないと、その本当の怖さはお伝えできません。皆様にも、よく知って頂きたいと思います。



米国財団法人野口医学研究所 顧問会議 副議長
有限会社コレクト 顧問

宇佐美 宏

「セカンドオピニオン外来の今」について

がんの治療法には、3大治療法である外科療法、放射線療法、化学療法以外にも免疫療法や温熱療法があります。温熱療法の一つである「オンコサーミア」は、ハンガリーのサーズ教授が開発した方法で、がん細胞を標的にして熱を送り込むことで、本来の免疫機能を活性化させてがん細胞を自死(アポトーシス)に導くものです。従来の温熱療法のように火傷や強い不快感といった副作用を伴わないのが特長です。

ここで主治医にステージ2と診断された患者様の症例をご紹介します。主治医の下で治療をしていましたが、症状が改善せず、セカンドオピニオン外来を受診しました。PET/CT検査の画像読影を行った結果、実は骨転移が見られるステージ4の状態でしたが、前の病院では何も言われなかったそうです。「オンコサーミア」と免疫療法を組み合わせることで治療した結果、がん細胞が縮小しました。

このように、病院や医師によって、医療技術や診療の質に差が生じることもありますから、自分にとって最善と思われる治療について、主治医以外の医師に聞く「セカンドオピニオン」は患者様にとって重要な選択肢と言えます。



米国財団法人野口医学研究所 理事
特定非営利活動法人 野口医学研究所 専務理事
野口記念インターナショナル画像診断クリニック 院長

佐藤 俊彦

TJU客員教授任命式

2015年7月1日（水）

於:Thomas Jefferson University(TJU) Curtis Building, Suite 320

東京大学大学院医学系研究科 医学教育国際研究センター センター主任北村聖先生と、徳洲会地域家庭医療総合センターの佐野潔先生が、TJU客員教授に招聘され、2015年7月1日任命式が執り行われました。



左 : Joseph S. Gonnella, M.D.
Distinguished Professor of Medicine
Dean Emeritus

右 : 北村聖先生



感謝

去る7月1日にトーマス・ジェファーソン大学の医学教育研究センターからvisiting scholarの称号をいただきました。身に余る光栄と存じます。当日は、医学教育研究センター長のゴネラ教授から直々に賞状とトーマス・ジェファーソン大学の歴史の本をいただきました。ゴネラ教授は米国医学教育会の重鎮で、中でもプロフェッショナリズムやエンパシーの教育では世界の第一人者です。その方から2時間近くも直接、医学教育に関するお話を伺うことができ、至福の時間を頂きました。これからも、この称号に恥ずかしくないよう日本の医学教育の発展に少しでも貢献できたらと決意を新たにしました。また、この称号を活かして、日米の医学教育の橋渡しの役割を果たすことができるよう頑張りたいと思います。

北村 聖先生プロフィール

1978年東京大学医学部卒業、第三内科入局。免疫学教室研究生を経て、1984年米国スタンフォード大学に留学。帰国後東大病院検査部に移り、1995年同副部長、臨床検査医学講座助教授。2002年東京大学医学教育国際協力研究センター教授。2013年より組織変更のため、東京大学大学院医学系研究科 医学教育国際研究センター教授。2003年より東京大学医学部附属病院総合研修センター センター長、2013年より総センター長を併任する。

パシフィック・パートナーシップ

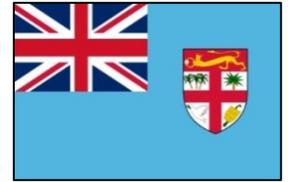
NPO野口医学研究所は、2015年6月に、フィジー、パプアニューギニア及びフィリピンにおいて実施される米軍主催の“パシフィック・パートナーシップ2015”に民間団体として参加することが決定しました。



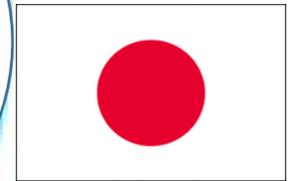
パプアニューギニア独立国



フィリピン共和国



フィジー共和国



日本

パシフィック・パートナーシップとは

2007年より米軍が主催している活動であり、米海軍を主体とする艦艇が地域内の各国を訪問し、医療活動、土木工事及び文化交流を行い、各国政府との協力を通じ、参加国の連携強化や国際平和協力業務及び国際災害救援活動の円滑化を図ることを目的とする活動です。

防衛省・自衛隊HPに掲載



3 参加民間団体

特定非営利活動法人国際緊急医療・衛星支援機構 10名
 特定非営利活動法人野口医学研究所 3名



米国財団法人野口医学研究所 創業者・名誉理事
一般社団法人野口医学研究所 社員総代

浅野嘉久の公式サイトを開設しました！

この度2015年6月に、米国財団法人野口医学研究所の創業者・名誉理事、一般社団法人野口医学研究所の社員総代である浅野嘉久が個人の公式ホームページ並びにSNSサイトを開設しました。

Facebookページやブログはほぼ毎日更新しています。

「野口」に係わる内容に限らず、幅広い分野に目を向けてエッセーを公開していきます。少しでも多くの方に興味を持って頂ければと考えていますので、是非アクセスして頂ければ幸いです。



■公式ホームページ

浅野嘉久という人物に関する細かなプロフィールを掲載しています。



公式ホームページ

<http://www.yoshihisa-asano.com/index.html>



■Facebookページ、Twitter、公式ブログ

日々感じていること、おすすめスポットやグルメ、懐かしい思い出等々、惜しみなく紹介していきます。



Facebookページ

<https://www.facebook.com/asano.yoshihisa>



Twitter

https://twitter.com/yoshihisa_asano



公式ブログ（アメブロ）

<http://ameblo.jp/yoshihisa-asano/>



賛助会員のご紹介

米国財団法人野口医学研究所は、国際医学交流の促進を目的とした活動を永年に亘り続けてきました。日本が生んだ世界的医学者・野口英世博士の偉大な業績を称えその遺志を受け継ぐためには、国際医学交流活動は不可欠であると考えています。当財団の「賛助会員制度」は、多くの方々にこの活動へのご理解とご支援を承る役割を果たしています。今回は、株式会社デイマート様をご紹介します。

会社の目的

私たちは、100年以上存続できる会社になることを目指し、健康関連食品や機器等の紹介・販売やサービスを提供しています。私たちの提供する商品やサービスによって一人でも多くの方が元気で楽しい人生を送れるようになれば、大きな社会貢献になると考えています。



サービス

■ **グリーンランド・コマーシャルショップ**では、元気づくりの「気づき」をサポートします。

身体を壊して治療に頼るより、病気の予防が大事です。それより更に一歩進んで「元気づくり」を目指します。

■ **「ももの会」**（会員制）では、コミュニケーションを通じて元気づくりのサポートやアドバイスを継続して行います。

■ **「ず〜っと元気クラブ」**（会員制）では、人生の質（QOL）の更なる向上と、オプティマル・ヘルスの実現に向けた強力なサポート活動を行っています。

どんな環境にあっても、笑って明るく楽しく、そして誰にも迷惑をかけない人生づくりを全力でサポートします。



株式会社 **デイマート&グリーンランド**

〒657-0856兵庫県神戸市岩屋南町3番25号

笑って・明るく元気に・楽しく ENERGY HAPPY FEELING HEALTH © ☎078-802-2960 <http://daymart.co.jp>

● **主治医以外に意見を求めたい方に**
「画像診断セカンドオピニオン」

● **がんの早期発見に**
「テロメスキャン®」

● **がんの免疫細胞療法に**
「BAK療法」

● **乳がんに対する不安に**
「乳房専用のPET検査“PEM”」



医療法人社団NIDC

野口記念国際画像診断クリニック

Noguchi International Diagnostic Clinic

是非一度ご相談下さい

お問い合わせは
「野口医学研究所」まで



NOGUCHI TIMES

Noguchi International Business Conference News Vol. 8

発行日 2015年7月21日
発行人 安東 恭助
発行所 米国財団法人野口医学研究所
編集 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-13
電話 03-3501-0130
米国財団法人野口医学研究所 参与会
